

第2回深川南部・臨海部 報告書

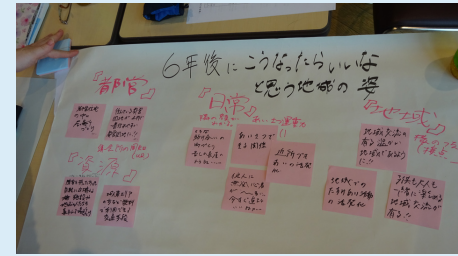
2023.6.28

豊洲文化センター

13:30~15:30

まちづくり 話し合い ひろば

参加者 17名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

あつまる！つながる！やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



振り返りのシートにはヒアリングを実施した際の感想として、「生活に本当に余裕がなくぎりぎりだ」という声があって、6年後の街のビジョンを描く余裕のない個人、孤立している個人、こういう人たちに響いていくビジョンを作っていかなければならない。皆さんはこの場にいらっしゃらない人の声に耳を傾けていかなければならない。

「助けてください」といような内容は、自分でも気づきにくい悩みであったりして、人と話している時に『ああ、自分は悩んでいるんだな』と気づくようなもの。そのように人と関わり合い気づき合えるような、自然で継続的な付き合い、こういう場をどう作っていくか、元々地域に根付いているものと従来なかった発想や仕掛け組み合わせていくことが必要。

6年後こうあったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

深川南部

- ・都営住宅にたくさんあるスペースを有効活用して、横でつながることのできる居場所がある地域
- ・長屋の付き合いの頃のような、日常生活の中で挨拶や付き合いがある地域
- ・挨拶からつながりを作っていける地域
- ・地域交流、地域での助け合いの活動が活発化した地域
- ・障害を持った方や地域の方が気軽に集まれるような場がある地域
- ・多世代交流の居場所がある地域
- ・困っている人に気軽に手助けのできる地域

臨海部

- ・住民同士が協力し合える地域のボランティアが活躍できる地域。
- ・シェアハウスのような形で、大学生には家賃を補助する代わりに、困りごとの手伝いや地域の活動に参加してもらう地域
- ・戸建てがない、マンションエリアでの多世代交流の場がある地域
- ・デイサービスが多数ある地域

自分・地域・団体で できること 一部抜粋

- ・自治会活動が「楽しい」と思えるようなものにしていきます。
- ・団地の集会所が居場所づくりに役立てていけるようにしていきます。
- ・健常者の方も障害者の方も楽しく交流できるようにユニカールやボッチャを色々なところで普及して楽しんでいます。
- ・自分が住んでいる団地を中心にコミュニティづくりをします。
- ・知り合いにどんどん声をかけて仲間を増やしていきます。
- ・地域の方が「お客様」として参加するだけではなく「主体者」として実施していきけるようにしていきます。
- ・活動する場所、借りられる場所を作ります。

- ・災害時に大学生等若い方に協力してもらえよう、日頃から若い方が地域活動に参加できるようにします。
- ・シビックセンターだけでなく、東雲1丁目や2丁目等、各地域で小さなカフェ（居場所）を催していきます。
- ・集まった方の中で得意分野を持っている方がいたら、そこから派生して新たな集まりを催していきます。
- ・声をかけ、知り合いを増やし、輪を広げていきます。



第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうあったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分でできること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になるようなご意見が出たのではないかと思います。